

2019 年度
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
麻生工科自動車大学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生工科自動車大学校の2019年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2020年 1月31日

校 長 野見山 秀樹

自己点検・評価責任者

校長代行 大熊 一博

目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像）	- 3 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 5 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像	- 5 -
	基準 2 学校運営	- 6 -
	基準 3 教育活動	- 7 -
	基準 4 学修成果	- 11 -
	基準 5 学生支援	- 13 -
	基準 6 教育環境	- 14 -
	基準 7 学生募集	- 16 -
	基準 8 財務	- 17 -
	基準 9 法令遵守	- 18 -
	基準 10 内部質保証	- 18 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 19 -
	基準 12 国際交流	- 20 -

評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

I 教育理念・教育目標（人材育成像）

① 教育理念

一流技術者として広く国内外で活躍できる確かな技術と知識、コミュニケーション力を備え、感謝心や他者を思いやる気持ちを持つ社会性豊かな学生を輩出する。

②教育目標

【1級自動車整備科】

4年間で1級自動車整備士資格を目指す。幅広い高度な整備技術能力（新しい電子制御機構や新技術にも対応できる総合診断力）とビジネス感覚を身につけた整備技術コンサルタントとしての人材を育成する。さらに、環境保全や安全管理の学習を通して、職場や地域環境保護に対しても先導的な役割を担うことのできる人材を育成する。

【2級自動車整備科】

2年間で2級自動車整備士取得（ガソリン・ディーゼル）を目指す。整備業界で即戦力として活躍できる整備士としての基礎技術を身につけた人材を育成する。また、新しい電子制御機構や現在の整備作業の傾向に合わせて、正しい診断技術をも含めた整備及び検査ができる人材を育成する。

【自動車工学・機械設計科】

車輛制作実習を通して、自動車の構造を理解し、構想設計、詳細設計、コスト管理、プロジェクト管理、スケジュール管理を実践的に学び、設計開発エンジニア、生産技術エンジニアを目指す。自動車メーカー、自動車部品メーカー、産業機械メーカー、エンジニアリング企業のいずれにも対応できるカリキュラムで、自ら考え、自ら動けるものづくりエンジニアを育成する。

【国際自動車整備科】

3年間で2級自動車整備士取得（ガソリン・ディーゼル）を目指す。日本企業が求めるビジネスコミュニケーション力および整備業界で即戦力として活躍できる整備士としての基礎技術を身につけた人材を育成する。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

① 資格試験および合格率の向上と取組みの成果を上げる

国家1級自動車整備士試験についてはここ数年出題傾向が変わっており、合格率が安定していない状況。さらなる傾向問題対策を実施し、改善を図る。

② 学科のカリキュラムを順次性のある授業科目の体系的に配置する。

各学科のカリキュラムをもとにカリキュラムツリーやカリキュラムマップを作成しディプロマポリシーやカリキュラムポリシーとの整合性をとり、体系的な編成を作成する。

③ 留学生に対する相談体制の整備

教務にて留学生対象の在校生アンケートを実施した。今後はアンケート取得も継続して行い、取得した意見を基に留学生の就学・生活環境の整備を図って行く。

2. 取組み状況

① 資格試験および合格率の向上と取組みの成果を上げる

国家1級自動車整備士試験について、近年国家試験の状況に関し、他校へのヒアリングや傾向分析した上で検定対策資料の改定を定期的に施し、整備知識（診断能力・新技術）について理解の向上を進めると共に学生のモチベーションアップを図る。

② 学科のカリキュラムを順次性のある授業科目の体系的に配置する。

カリキュラムは年度開始前に各学科で検討し修正しながら実施しているが、カリキュラムツリーやカリキュラムマップについては担当者や作成方法が明確でなかったためカリキュラムについての研修会に参加し、必要性を確認し、今後各学科にて作成し体系的な編成を目指す。

③ 留学生に対する相談体制の整備

教務にて留学生対象の在校生アンケートを実施した。今後はアンケート取得も継続して行い、取得した意見を基に留学生の就学・生活環境の整備を図っている。

3. 総括（成果と課題）

① 資格試験および合格率の向上と取組みの成果を上げる。

国家1級自動車整備士試験において近年の傾向を分析し、読解力に重きを置いた指導及び対策問題を展開した。また、指導区分を小グループ制からクラス単位に変更し、学生が相互の進捗共有を行える環境を整え、モチベーション向上を図る事が出来た。合格率についても昨年度を大きく上回る成果を上げる事が出来た。しかし、診断技術や新技術に関する知識・スキルの共有に関しては、いまだ個人の能力に依存している部分もあるため、研修の場を増やしていく。

② 学科のカリキュラムを順次性のある授業科目の体系的に配置する。

教育理念やディプロマポリシー等との整合性を保ちながら、各学科でカリキュラムツリーやカリキュラムマップを作成することによって体系的なカリキュラムを作ることができ、実施状況、効果性、有効性に効果があると考えられ、今後各学科リーダーを中心に研修会に参加し作成していく。

③ 留学生に対する相談体制の整備

次年度は留学生クラスも増え、留学生在校生も増えるのでこれまで実施していた既存のアンケートと併せて留学生在校生向けに満足度調査アンケートを開発して実施する。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

学校として教育に関する内部質保証のためのPDCAサイクルの起点として機能するよう、学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確化する為に「学校の教育理念」の明文化が求められるので今年度は「学校の教育理念」を本部と共同で作成。

学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図る為、以下の内容と併せてWebサイトにて社会に公表した。

- ・ 建学の精神：校訓「無私」を麻生塾の基本価値とし教職員・学生の心のよりどころとすること（学生便覧等にも明文化して浸透を図っている。）
- ・ 理念：創立当初より企業や組織に求められる人材を育成することを理念として専門教育を行ってきたものを麻生塾のミッションの一部として明文化（学内に掲示等）
- ・ 学科の目標（育成人材像）および教育計画（カリキュラム）：文書化（学生便覧にて学内外に提示・公表）

【課題】

年度当初の時点では「学校の教育理念」を本部と共同で作成したが、制作に時間を要した為、Webサイトでの公開までには至っていなかった。

【今後の取組み】

「学校の教育理念」について、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図る為、「法人の理念」「学校の教育理念」「学科の教育目的・育成人材像」を本部と連携を図った上でWebサイトにて社会に公表している。変更等があれば随時対応する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

=====

基準 2 学校運営

=====

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

麻生塾本部の運営方針を共有策定し周知している。運営方針に沿った事業計画を部門長にて策定し共有すると共に全体へ周知している。定例のリーダー会議や全体会議といった意思決定システムを整備し、活用している。また、麻生塾システム・デスクネットを有効活用し就業規則やスケジュール管理や伝達事項を共有、業務の効率化を図っている。教職員の募集・採用は本部の人事グループと連携し対応している。また昇格については業務遂行シート、目標達成シートを使い面談を実施し、合意に基づいた評価を行っている。

学校業務については学内の事務局の他にグループ本部内に人事、経理、留学生窓口など様々な支援組織が設置され、十分に機能している。また、事務職員は意欲・資質の向上を図るために本部及び外部主催の研修に計画的に参加している。

【課題】

事務局職員についても外部研修に参加しているが記録資料を作成していない。

【今後の取組み】

今後も定例のリーダー会議や全体会議といった意思決定システムや麻生塾システム・デスクネットを有効活用し、業務の効率化を継続する。事務局職員についても研修計画表を作成する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	A
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	A

=====
基準 3 教育活動
=====

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

学則及び成績評価、進級および卒業に関する規定内で教育目的および育成人材像に基づき進級・卒業要件を明示した上で、学校構成員に周知している。また、成績評価及び卒業・進級条件についてはHPを通じて社会に公表した上で定期的に検証を行っている。

また、カリキュラム及びシラバスにてカリキュラムポリシーを明示し学校構成員に周知している。また授業科目等の概要においてはHPを通じ社会に公表し、定期的に検証を行っている。

【課題】

ディプロマポリシー自体が評価基準寄りの表現となっており、本来の育成人材像を表す表現となっていない。

【今後の取組み】

社会や時代背景により育成する人材像は流動的に変化する為、学校関係者評価委員や教育編成委員にて企業・業界団体の意見を取り入れ、継続してニーズに合った教育課程を編成・実施していく。
ディプロマポリシーについては育成人材像をふまえ、適切な表現に置き換える。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	A
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成している。業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容を提供している。専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行う中で学科・実習などの教育方法および適切な時間配分により十分な学習指導を行えているが体系的なカリキュラムマップの作成までは至っていない。

授業はシラバスに基づいて授業が展開されており、データとして保管した上で学校構成員に周知を図っている。さらにインターネット上で専門知識の学習が行えるソフト（my トレーニング）のID・パスワードを入学前へ事前に配布しリメディアル教育を行っているが、組織的な活動には結びついていない。

専攻分野における実践的な職業教育については全学科対象（整備科1、2級は2社、自動車工学・機械設計科は1社）による企業の非常勤講師による授業を実施している。また企業へのインターンシップについても全学科にて定期的実施している。

各学科1年次より就職実務の授業内で企業からの職種理解セミナーやOB・OG体験談、国内外への研修旅行といったキャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促している。

【課題】

教育課程の編成・実施方針に基づき、業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容を適切に提供していく上で、時代に応じたカリキュラムの見直し及び、教材、設備の整備が適宜必要。

【今後の取組み】

専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行う中で業界のニーズや新技術情報をタイムリーに収集し、計画的にカリキュラムの見直し及び、教材、設備の整備を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	B
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	S
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	A
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

授業評価においては全教員及び非常勤講師を対象に年2回教師アンケートを実施。結果については本部が集計し、分析後に各校へ結果を通知。その後部門長から各教員へフィードバックを行っているがアドバイスの実施までは至っていない。

状況によって改善を図る目的で部門長による授業見学及び個別指導を実施している。

また、新任の教員対象にチューター制度を活用・非常勤には担当教員を導入し、教育の評価と指導を行っている。

【課題】

教師アンケートの結果に応じたアドバイスを実施出来ていない。

【今後の取組み】

教師アンケートの結果についてコーチングのフィードバックを徹底し、記録を残す。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	S
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

授業評価の実施・評価体制においては「期末成績・評価実施要領」を作成し、評価基準の統一を図った。また、定期試験や平常点の結果については「平常点入力表」「試験点数入力表」へ入力し、可視化を行い、成績判定内容の誤差を無くした。また、授業時数及び授業方法により単位数を決定し認定している。さらに学則及び成績評価、進級および卒業に関する規定内で進級・卒業判定を行っている。

【課題】

現状特になし。

【今後の取り組み】

成績評価については職業実践専門課程・教育課程編成委員会にて期末試験や授業内容テストの内容についてまで意見を頂き、さらに評価精度を上げていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築し、組織体制を整備している。また、教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のために学内・企業団体が実施する研修へ計画的に参加する事でスキルの向上を図っている。

【課題】

企業団体が主催する教員向けの研修においては担当教科の関係から人によって参加頻度にばらつきがある。

【今後の取組み】

学内・企業団体が実施する研修への参加を計画的に調整していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	S
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S

=====

基準 4 学修成果

=====

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

年度開始前に学科会議で前年度の結果や評価を考慮し、学生に関する目標設定を行い、キックオフ会議で教職員が情報共有、周知できるようにしている。

就職に関しては各学科について月ごとの目標を設定している。内定状況や学生の内定先など就職の動きが教職員で共有できるシステムを作成し、データの管理を行っている。就職担当と担当教員で毎週実施している定期会議やミーティングを開き、学生の就職状況に関して検証を行い、教職員に対して学科会議などで定期的に報告を行っている。学校のパンフレット・HP・オープンキャンパス・入試説明会・保護者会などで外部に対して就職実績を公表している。

評価・成績・資格・検定・退学に関しても担当者会議を設け目標設定を行い、結果や結果に対する検証を文書化し記録すると共に教務会議などで教職員に共有している。

卒業生の専攻分野における社会的評価については毎年企業に入社後1, 3年目の卒業生を対象としたアンケートを実施し適応性や効果を確認している。また、卒業年次の学生を対象に早期離職防止セミナーを実施し就業前のキャリア形成を図っている。

【課題】

国家1級自動車整備士試験についてはここ数年出題傾向が変わっており、合格率が安定していない状況。

さらなる傾向問題対策を実施し、改善を図る。

内定後、整備士の仕事内容についての理解不足による早期退職がみられる。

【今後の取組み】

近年の傾向を分析した上で対策を施し、整備知識（診断能力・新技術）について理解の充実を行うと共に学生のモチベーションアップを図る。（合宿、宣言など）これによって国家1級自動車整備士試験の合格率向上を目指す。また、早期離職防止の取組みとして企業や業界団体からの講演や研修会の機会を設けるなど学生の職業観の醸成を図る。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	S
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	A
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	B
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	A
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	A
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	S

基準 5 学生支援

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

学生の修学支援や進路支援については担任及び就職専任スタッフにより適切な支援を行っている。また、学生相談に関してはカウンセラー及びハラスメント委員を設置、さらに毎月「いじめ防止の日」を設定しいじめ防止の施策を図っている。学生の経済的側面に対する支援制度として学生支援機構及びグループ独自の奨学金制度、学費分納制度を整備し学生へ案内し、希望者には適正な審査を行っている。

学生の健康管理を担う体制として定期的な健康診断の実施やAEDの設置に加え、学生の生活環境への支援として直営・提携寮の設置を行っている。

保護者に関しては担任を軸に保護者会や3者面談などを実施し、連携を取っており、卒業生・社会人に関しては校友会組織の設置や再就職支援、国家試験対策といった体制を整備している。

その他にも学生の課外活動に対する支援として各クラブ活動に顧問を置き、活性化・支援を行っている。

【課題】

成績優秀者を対象とした学校独自の学費免除制度の告知タイミングが学期末近くとなっており、学生のモチベーションアップにおいては効果的に運用できていない。

【今後の取組み】

制度自体の存在や対象学生を学内全体に周知する。報奨内容についてはより学生のモチベーションアップにつなげられるものを検討する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S

5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S

=====
基準 6 教育環境
=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

法令に則り、教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、学校設備・教育備品・教具の一覧表及び点検表にて管理体制の組織図維持・管理、安全・衛生を確保している。また、教育上の必要性に対応した機材・備品を整備している。

図書室・図書コーナーについては開校当初に設置した図書室が活用されておらず書籍・資料が分散している状態にあった。現在、5Fにあるリフレッシュルームに図書コーナーを設け、一部資料を貸し出している状況。

【課題】

学内の図書室・図書コーナーの現状を調査した所、開校当初に設置した図書室が活用されておらず書籍・資料が分散している状態にあり、図書室の機能が不十分。

【今後の取組み】

次年度は学内の図書室・図書コーナーについては所定の場所を検討の上決定する。また保管する書籍については保管対象の書籍を新規購入し既存のものを選別する予定。

その他施設設備についても実践的な授業を実施できるよう改善を検討する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	B

中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

学外の実習施設として、福岡県自動車整備振興会にて定期的に研修を受講させている。インターンシップについて、1級整備科については4年次に内定先企業を基本として体験実習を実施している。また、自動車工学・機械設計科については2年次の夏・冬休みを活用して企業主催のインターンシップへ参加している。海外研修等については整備科1年生が国内（関東地区）にて車両関連のイベント・関連施設及び企業視察を行い、整備科4年生においては海外（アメリカ）にて整備学校の授業を受講し、車両関連施設の見学を行う。また自動車工学・機械設計科においては2年次に国内（関西地区）にて自動車関連施設の見学を行っている。これらについては実施要項・マニュアルを作成し、受入機関と連携を図り、安全面・補償面ともに十分な教育体制を整備して実施している。

また、学校における安全管理の整備についてはオリエンテーション内で避難訓練を実施しており、実習時の安全管理に関する授業を初回カリキュラム内に盛り込んでいる。

【課題】

現状特になし。

【今後の取組み】

教育環境に関しては時代背景を考慮しつつ、意義や教育課程上の位置づけを向上させる為に適切な環境を提供する。またインターンシップ先や研修旅行の行き先については意義や教育課程上の位置づけを確認しながら決定していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、募集要項やホームページを通じて学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表している。

募集活動においても、パンフレット、ホームページを通じ検定合格状況、就職状況などの教育成果を正確に伝えている。

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っている。

また、学生納付金等はグループ本部と協議の上妥当な設定を行っている。

【課題】

留学生対象の新設学科の設置に伴い、多様な学生の受験が見込まれる為、入学者選抜方法については必要に応じて見直しを図る必要がある。

【今後の取組み】

留学生を募集している学校（グループ校及び各種専門学校）の情報を収集し、アドミッションポリシーに則した募集活動を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	A

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立している。
 予算計画は有効かつ妥当なものとなっており、予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立がなされている。また、私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告している。
 情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題】

現状特になし

【今後の取組み】

今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取組みを継続的に行っていく。その分析等により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討、実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

法令等遵守に関する啓蒙や教育が教職員に対して適切に実施され、教職員は法令遵守を理解し、規定に従っている。法令改正等に応じた法令等遵守規程類の見直しが適時適切に行われ、法令等遵守義務や違反に対する処分等が規程の中で明確にされ、問題発生に対応する通報システム等の体制も整っている。

【課題】

現状特になし。

【今後の取組み】

教職員が定期的に法令遵守に関する研修会へ参加し、全教職員の理解を深めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

基準 10 内部質保証

中項目 10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、重点項目を定め課題解決に取り組んでいる。学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、意見を集約し、改善の取組みを行っている。自己点検・評価及び学校関係者評価の結果をホームページ上で公表し、社会に対する説明責任を果たしている。

【課題】

自己点検・評価の重点項目については教職員全体への共有が年度初めのみとなっており、教職員間で目標意識の差がみられる為、効率的に改善を行えていない。

【今後の取組み】

自己点検・評価の重点項目については改善策の実施状況の中間・結果を全教職員に全体会議の中で定期的に共有する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

=====

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

公共的な機関として、日本赤十字等団への支援や、国内外からの教育施設見学受入など積極的に社会貢献を進めている。社会貢献・地域貢献を行っている。

1級自動車整備科においては3年次に、学生の地域貢献として、教育内容を生かし、小学生を学校に招いての職業体験イベントを開催している。

【課題】

ボランティア活動の中で単位認定されているものとそうでないものがある。

【今後の取組み】

対象範囲を広げるなど新たな取組みを常に検討していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S

=====

基準 1 2 国際交流

=====

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っている。
留学生に対する相談体制として、各クラスに担任及び担当主任が在籍しているものの情報収集するツールとしては全学生を対象に在校生アンケートを実施しているにとどまっている。
また、ビザの更新手続きを対応できる有資格者を2名配備している。
海外留学プログラムに対する支援として学生対象に年に1回海外留学説明会を開催している。

【課題】

教務にて留学生、日本人を特に区分せず、全学生を対象に在校生アンケートを実施しているにとどまる。

【今後の取組み】

次年度は留学生クラスも増え、留学生在校生も増えるのでこれまで実施していた既存のアンケートと併せて留学生在校生向けに満足度調査アンケートを開発して実施する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S